

特集展示

新発見! なにわの考古学

Recent Archaeological Discoveries
in Osaka, 2024

令和6年9月4日(水)～10月28日(月)

2024

展示している主な出土資料と遺跡の位置

東淀川区

下新庄遺跡E地点 :①
古墳時代中期: 須恵器・土師器

北区

豊崎遺跡 :②
古墳時代前期: 古式土師器・土錘・イダコ壺
中之島蔵屋敷跡(高松藩) :③
古墳時代: 陶質土器椀
江戸時代: 国産陶磁器・中国産磁器・ヨーロッパ産陶器
中之島蔵屋敷跡(徳島藩・丸亀藩) :④
江戸時代: 国産陶磁器・中国産磁器・社文瓦

中央区

大坂城下町跡 :⑤
江戸時代: 国産陶磁器・中国産磁器・紅猪口・紅皿
大坂城下町跡 :⑥
奈良～平安時代: 須恵器・土師器・移動式竈・唐草文軒平瓦
江戸時代: 漆椀・木簡・蒔絵櫛・中国産磁器・国産陶磁器
大坂城跡 :⑦
豊臣期: 鉄砲玉・鉛インゴット・金箔瓦・国産陶磁器
難波宮跡 :⑧
飛鳥時代: 須恵器・蓮華文軒丸瓦

天王寺区

上本町遺跡 :⑨
鎌倉時代: 常滑焼鉢・瓦質土器甕・龍泉窯系青磁碗
四天王寺旧境内遺跡 :⑩
鎌倉時代: 瓦器・龍泉窯系青磁碗・土壁の破片
豊臣期: 瀬戸美濃焼・中国産磁器

平野区

加美遺跡 :⑪
弥生時代終末: 弥生土器(庄内式期)
亀井北遺跡 :⑫
弥生時代後期: 弥生土器
古墳時代後期: 大足・須恵器



講演会「大阪の歴史を掘る2024」

展示で取り上げた大阪市内の発掘調査の成果を紹介し、新たに得られた知見や発見の意義についてお伝えします。また、神戸大学准教授の高槻泰郎氏には、発掘調査でも多くの成果があがっている大坂蔵屋敷について、米市場と金融市場、双方の観点から、大坂蔵屋敷が果たした経済的役割について、近年の研究成果を交えてお話いただけます。ぜひご参加ください。

- 1) 南 秀雄(一般財団法人大阪市文化財協会 学芸員)
「大阪市内の発掘調査成果—令和5年度を中心に—」
- 2) 高槻 泰郎氏(神戸大学経済経営研究所 准教授)
「近世大坂蔵屋敷の果たした経済的役割について」

【日 時】 令和6年9月21日(土)
午後1時30分～4時30分(午後1時から受付開始)
【主 催】 大阪歴史博物館・(一財)大阪市文化財協会
【会 場】 大阪歴史博物館4階 講堂
【定 員】 200名(インターネットによる事前申込、先着順)
【参加費】 1,000円(残席がある場合、当日受付 1,200円)



講演会申込用二次元コード

<https://passmarket.yahoo.co.jp/eve/nt/show/detail/020jbb2gkst31.html>

展示解説

担当学芸員が展示資料や見どころについて、わかりやすく解説します。

【日 時】 令和6年9月7日(土)、9月28日(土)、10月26日(土)
午後2時より30分程度
【講 師】 寺井誠(当館学芸員)
【会 場】 大阪歴史博物館8階 特集展示室
【参加費】 無料(ただし、入場には常設展示観覧券が必要です)
【参加方法】 当日直接会場へお越し下さい。



「摂津名所図会」に描かれた仲仕

大阪歴史博物館 Osaka Museum of History

〒540-0008 大阪市中央区大手前4-1-32
電話 06-6946-5728 FAX 06-6946-2662
<https://www.osakamushis.jp/>

特集展示「新発見!なにわの考古学2024」

会 期: 令和6年9月4日(水)～10月28日(月)
会 場: 大阪歴史博物館 8階 特集展示室
展示担当: 寺井誠(大阪歴史博物館)
小田木富慈美・清水和明(大阪市文化財協会)

開館時間: 午前9時30分～午後5時
※ただし入館は閉館30分前まで

休 館 日: 火曜日

観 覧 料: 常設展観覧料でご覧になれます。
大 人 600円(540円)
高校生・大学生 400円(360円)
※()内は20名以上の団体料金
※中学生以下、大阪市内在住の65歳以上の方(要証明証提示)、障がい者手帳などを
お持ちの方(介護者1名を含む)は無料



電車・バスでお越しの方
Osaka Metro谷町線・中央線「谷町四丁目」駅②・③ 号出口
大阪シティバス「馬場町」バス停前



おおよし
大足と須恵器(復元)の出土状況
古墳時代後期(6世紀)
平野区 亀井北遺跡

主催: 大阪歴史博物館・(一財)大阪市文化財協会



1. 河内平野・淀川河口部の新発見

弥生時代後期～古墳時代後期(1～6世紀)

かつて上町台地の東側には「河内湖」という湖がありました。大和川が南からいくつも枝分かれして流れ込み、河内平野が生み出されます。そして、低温な環境を利用して水田が営まれ、自然堤防上には集落が展開しました。一方、大阪湾に流れ込む淀川河口部の三角州にはいくつもの微高地が形成されて、豊崎遺跡のような集落が営まれ、河川・海上交通の要衝となりました。



漁網錘(土錘)・イダコ壺・浮き(軽石)
古墳時代前期(3世紀) 北区 豊崎遺跡



2. 難波宮と難波津の新発見

飛鳥～平安時代初頭(7～9世紀)

大化改新の一環で645年に難波に首都が移され、日本初の大和式宮殿である難波長柄豊碕宮(前期難波宮)が建てられました。昨年度の調査ではその宮殿からまっすぐ南に延びる道路(「朱雀大路」)が発見されました。

また、古代の大阪湾に面する海岸線近くの調査(大坂城下町跡)では、奈良時代から平安時代初頭の土器や瓦が多量に出土しました。難波津にかかわる重要な施設があった可能性があります。



奈良～平安時代初頭の土器と瓦
奈良時代～平安時代初頭(8～9世紀初頭)
中央区 大坂城下町跡 下層



3. 中世四天王寺周辺の賑わい

平安時代末～室町時代(12～16世紀)

飛鳥時代に創建された四天王寺は、中世になると浄土信仰・太子信仰をもとに周囲に多数の宗教施設が集まるようになり、門前町が形成されます。発掘調査では建物跡や井戸・堀など当時の町の様子をうかがわせる数多くの遺構がみつかり、出土遺物には、白壁の建物の存在を示す土壁の破片に加え、輸入された中国製の陶磁器類や、常滑焼など他地域の焼き物、さらには中国の銅銭(開元通宝・元佑通宝)などがあり、活発な経済活動がうかがえます。



常滑焼鉢(左)と瓦質土器甕
鎌倉時代(13世紀) 天王寺区 上本町遺跡



白土仕上げの土壁の破片
鎌倉～室町時代(13～15世紀)
天王寺区 四天王寺旧境内遺跡



4. 大坂城と城下町

豊臣期～江戸時代
(16世紀後葉～19世紀)

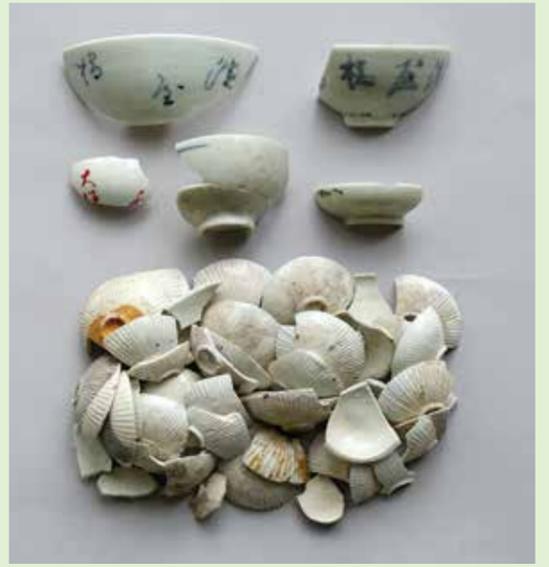
大坂城本丸中ノ段の調査では、城の石垣のほか大坂夏の陣で焼けた礎石建物と石組み溝がみつかり、被災後の整地層からは金箔押瓦や輸入陶磁器、さらには鉄砲玉などが出土しました。また、大坂城下町跡では慶長2年(1597)に現地に移転してきた北御堂(本願寺津村別院)の調査で、かつての寺域や町屋、道路などがみつかり、淀屋橋の南西では大坂冬の陣で焼けた大型の礎石建物がみつかったとともに、江戸時代の屋敷跡から化粧に使う紅猪口・紅皿が出土しました。



鉛製鉄砲玉と鉛インゴット
豊臣後期(17世紀初頭) 中央区 大坂城跡



徳島藩蜂須賀氏の家紋瓦(上:軒丸瓦、下2点:鬼瓦)
江戸時代(18世紀後葉) 北区 中之島蔵屋敷跡



紅猪口・紅皿
江戸時代(18世紀中葉～19世紀初頭)
中央区 大坂城下町跡



5. 中之島蔵屋敷の調査

江戸時代(17～19世紀)

江戸時代の中之島には、各藩から大坂へ送られた米を備蓄する蔵屋敷が建ち並んでいました。このうち中之島五丁目の高松藩蔵屋敷の調査では、船を敷地内に停泊させるための船入のようすが明らかとなり、丸亀藩と徳島藩の蔵屋敷の調査では、中之島開発以来の建物の変遷がわかりました。これらの蔵屋敷では陶磁器(中国・ヨーロッパ産を含む)をはじめ様々な生活用具に加え、大名の家紋瓦が出土しました。



中国・ヨーロッパ産の陶磁器
江戸時代(18～19世紀) 北区 中之島蔵屋敷跡